

## 統計調査員とは

統計調査員は、総務大臣や都道府県知事から任命される非常勤の公務員です。調査の対象である世帯や事業所などに直接行って、統計調査の趣旨を理解してもらうために調査の内容を説明し、調査票の記入をお願いします。その後、調査票を回収したあとは点検や整理などを行って市町村などに書類を提出

でしょうか。平成17年国勢調査の調査員の中から特に功績のあった人に表彰される「総務大臣表彰」を受け、現在も調査員を続けている大村美紀さんに調査員についての話を聞きました。

### 町を知りたくて歩いた

天草市生まれの大村さん。夫の実家である大津町に居を構えたのは昭和62年だった。三十代だった大村さんは大津町に来



おおむら みき  
大村 美紀さん(杉水)



前回の国勢調査で総務大臣表彰を受けたときの大村さん

# 統計調査員、その功績と意思。

します。つまり調査対象者に一番近い人が調査員であり、調査員の皆さんが分かりやすく説明してくれることで統計調査は円滑に進むことができます。

しかしその分調査員は苦勞も多いものです。調査世帯に会うことができなかったり、調査を断られたり：調査中は苦勞が絶えることはありません。

て、以来24年間大津町に住み続けています。統計調査員を始めたきっかけは「広報おおむら」に調査員の募集が載っていたことでした。子育てをしながら社会勉強にもなる仕事がしたいと思った大村さんはそれから調査員を20年近く続けています。

「いろいろな人と知り合いました。『いろいろな人と知り合いました。調査の苦勞は語れないほど多くありました。それでも調査員をやめたいと思ったことは一度もありませんでした。なぜなら、大切な調査である」と知っていたからです。統計調査がすべての基礎になる重要な調査であることが大村さんには

### つらくても…

「すべてを把握して調査を行えば、本当に良い資料ができると思うんです」調査を受けてもらうために何回もお願いすることもあるが、それは良い資料を完成させるため。その気持ちが伝わったときのうれしさは何ものにも代えられません。

昔から「まちづくりの特効薬はない」と言われます。まちづくりも少しずつ進みますので、急激に変化することはありません。だから調査員から渡された調査票を記入したことで、わたしたちの生活が快適になったかどうかは気づきにくいものです。

何でも少しずつ進むと、その変化には気づきにくいもの。結果的に大きく進んでも途中で進んでいる実感はありません。

「チリもつもれば山となる」一本のえんぴつがあれば記入することができる国勢調査。一本のえんぴつは小さな力かも知れませんが、大津町民全員のえんぴつは3万本以上になります。それが積み重なればきつと未来の大津町を照らす光になることでしょう。

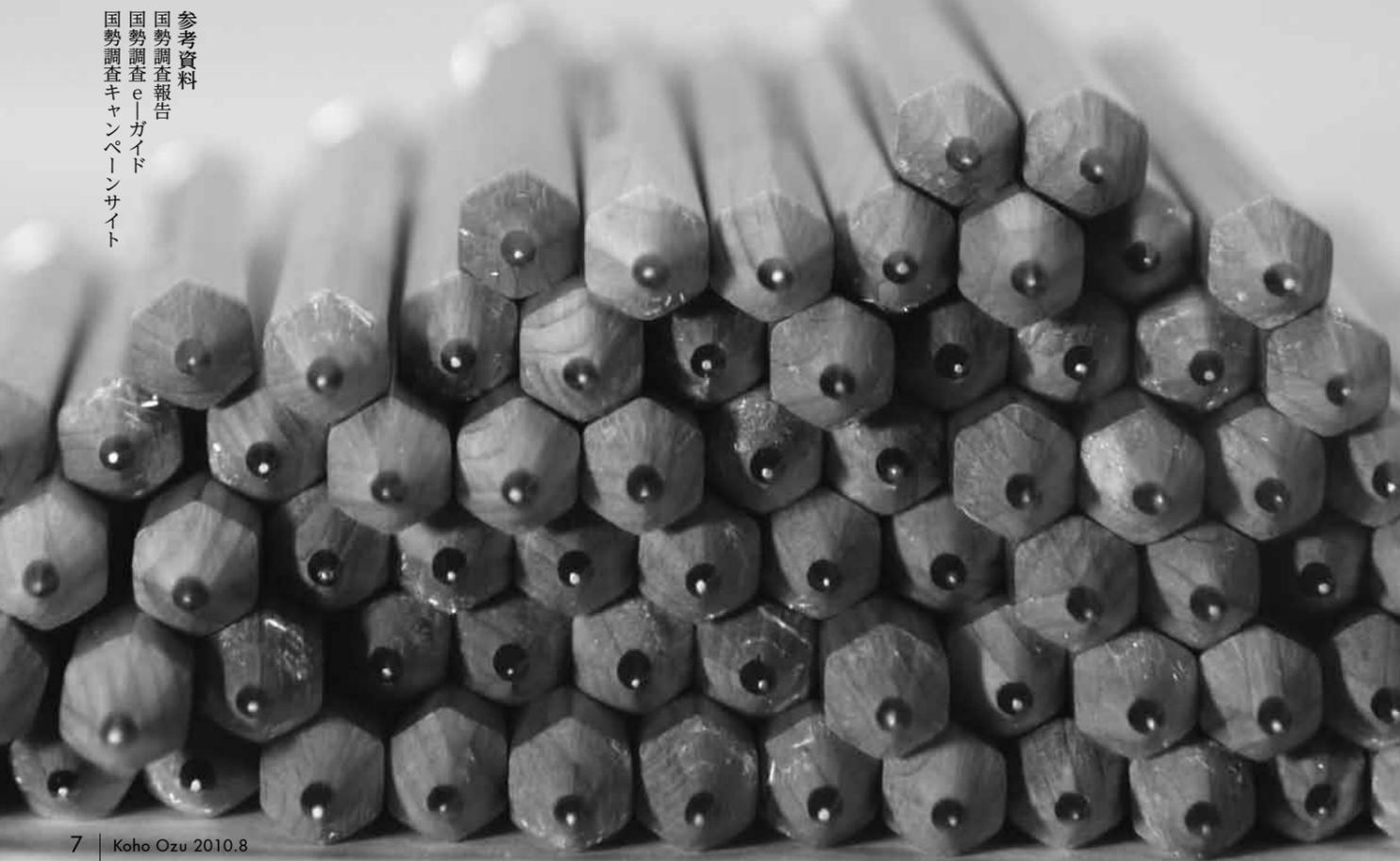
たった一本のえんぴつがまちづくりにつながるのです。そう、国勢調査は町民全員で行うまちづくりだと言えます。

——すべての人が参加できるまちづくりの日程は10月1日。明日の大津のために全員で参加しましょう。

えんぴつ1本でできるまちづくり

特集 国勢調査 終

## 積み重なるえんぴつは、明日の大津の結束を象徴する



参考資料  
国勢調査報告  
国勢調査e-ガイド  
国勢調査キャンペーンサイト

Column 日本で唯一!?! 国勢調査の名前がつく橋




熊本県小国町にある橋の名前はそのまま「国勢橋」。大正9年に竣工したこの橋は、第1回国勢調査を記念して名付けられました。木造だった橋も昭和7年には石造になり、現在も人々のために役立っています。また橋を基点とする通りも「国勢橋通り」と名付けられ、通りに面したお店の中には、清酒「国勢」を製造・販売する酒屋もあり、今も当時の趣を残しています。国勢調査の名前にちなんだ地名は全国でも珍しいとのこと。